

AIMS-Gifu を活用した授業方法の開発と評価(2)

～VOD と討議を組み合わせた学習～

加藤直樹*1, 村瀬康一郎*2, 益子典文*3, 松原正也*4, 伊藤宗親*5, 興戸律子*6

【概要】岐阜大学 AIMS-Gifu(Academic Instructional Media Service・Gifu)を活用した授業方法を On-Campus の学部講義を対象として開発し、実践した。基本的な授業方法は、知識理解重視の VOD(Video On Demand)と思考断重視の対面討議を組み合わせたブレンディッド型とした。本稿では、AIMS-Gifu を活用したブレンディッド型の授業設計について検討するとともに、実際の授業への適用と結果について報告する。

【キーワード】教育メディア、授業改善、教育方法、e-Learning、教育システム、高等教育

1. はじめに

岐阜大学 AIMS-Gifu は情報通信技術を活用した教育支援システムとして計画し、2003 年 3 月にプロトタイプシステムを導入し 2004 年より LMS (Learning Management System) を中核に本格稼働している。

すでに筆者等 (2004) は、AIMS-Gifu を活用した On-Campus における e-Learning についての授業方法の開発と評価について報告し、フレキシブル学習が促進され、クオリティ向上とあわせて、教育効果を高める手法となることを指摘した。

本システムでは、フレキシブル学習の促進とクオリティ向上という特徴を積極的に活かすために、VOD を学習方法として取り入れることを可能とした。さらに、対面による討議を併用することで、ブレンディッド型の授業設計に基づく授業実践を進めた。

2. ブレンディッド型の授業設計

2004 年の授業実践では、AIMS-Gifu の活用場面は、(1)学習課題の提示、(2)小テストの実施、(3)講義資料の事前配布、(4)掲示板のコミュニケーション等であり、資料の随時利用において特に評価が高くフレキシブル学習の基礎資料を得た。また、実践講義と他講義の受講者による主観評価の比較では、講義の内容や方法に対する満足度や学習者相互のコミュニケーションが実践講義において高く、教授者とのコミュニケーションにおいては差が認められなかった。

そこで、2005 年の授業実践では、2004 年度の授業方法を基礎とし、資料の随時利用によるフレキシブル学習を増進するとともに教授者との相互作用を重視した授業方法について検討し、この点に VOD と対面討議を組み合わせたブレンディッド型の授業を設計した。すなわち、知識理解に関する講義内容を予めビデオに収録し、VOD により随時視聴して学習可能とするとともに、思考判断を伴う講義内容を対面

*1 KATO, Naoki : 岐阜大学 e-mail= nkato@cc.gifu-u.ac.jp

*2 MURASE, Koichiro : 岐阜大学 e-mail= murase@cc.gifu-u.ac.jp

*3 MASHIKO, Norifumi : 岐阜大学 e-mail= mashiko@cc.gifu-u.ac.jp

*4 MATSUBARA, Masaya : 岐阜大学 e-mail= masa@cc.gifu-u.ac.jp

*5 ITO, Munechika : 岐阜大学 e-mail= mitou@crdc.gifu-u.ac.jp

*6 OKIDO, Ritsuko : 岐阜大学 e-mail= okidor@cc.gifu-u.ac.jp

討議の討議課題として設定し、教授者との相互作用により学習することとした。

VOD 講義ビデオは 1 講義内容を 50 分程度で収録し、2 講義時間分を 1 ユニットとした。したがって 1 ユニットの講義は 2 講義時間であり、1 講義時間を VOD 講義、1 講義時間を対面討議として構成した。VOD 講義は、学習者が任意の時間に視聴可能としたので、学習者は隔週で対面討議に参加する。対面討議以前には VOD 講義に関する課題レポートを提出することとした。対面討議時間の最初 15 分程度は VOD 講義内容の小テストを実施し、残り 75 分で課題レポートに関する対面討議を実施した。

3. VOD 講義

VOD 講義は、サイバーリンク社から提供される StreamAuthor により開発した。作成されたビデオは、WindowsMedia サーバに登録され、AIMS-Gifu へはスライド等を登録し、ビデオと同期させた。これにより学習者は、AIMS-Gifu から他の講義資料と同様に VOD にアクセス可能となった。

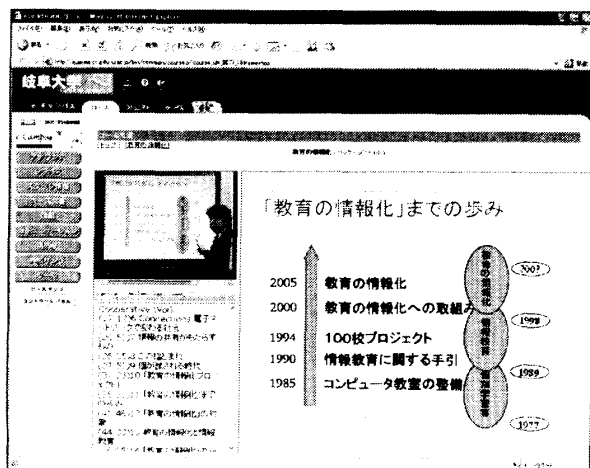


図1 VOD 講義の一場面

4. 実践結果

VOD 講義と対面討議を併用したブレンディッド型の授業の実践結果について、以下に

検討する。

AIMS-Gifu への総アクセスを、一人あたりで比較すると、2004 年が 1,095 ヒットで 2005 年は 1135 ヒットとほぼ同様にアクセスしている。しかし、講義曜日のアクセス割合は、2004 年が 62.1%であったのに対して、2005 年は 40.7%であり、よりフレキシブルな学習状況を示している。

対面討議における受講者の反応は、個人的な意見の聴取では肯定的であり、他の講義においても応用して欲しいと望む声が聞かれた。対面討議を通して、「そういうように考えられてきたのですね。」等の自らの思考深化に基づく理解が可能となっており、学習者相互の意見交流も活発であった。

5. おわりに

On-Campus における e-Learning を活用した教育方法として、ブレンディッド型が目される背景には、新しく利用され始めている個人学習の方法としての e-Learning に全面的に移行するのではなく、伝統的な講義における長所を見直すことによる授業方法の改善の視点が尊重されることに起因していると考えられる。

本研究では、伝統的な講義における授業方法の改善の視点に立ち、昨年度の講義に、知識理解を促進する VOD 講義と思考判断を深化する対面討議を併用したブレンディッド型の授業方法を取り入れ、フレキシブル学習とクオリティ向上の授業方法を提案した。

今後は、受講者へのアンケート調査を実施し、教育効果についての検討を行う計画である。

【参考文献】

- 1) 先進学習基盤協議会(2004), e ラーニング白書 2004/2005 年版, オーム社
- 2) 加藤直樹(2004), AIMS-Gifu を活用した授業方法の開発と評価(1), 岐阜大学カリキュラム開発研究, Vol.22, No.1, pp.8-15